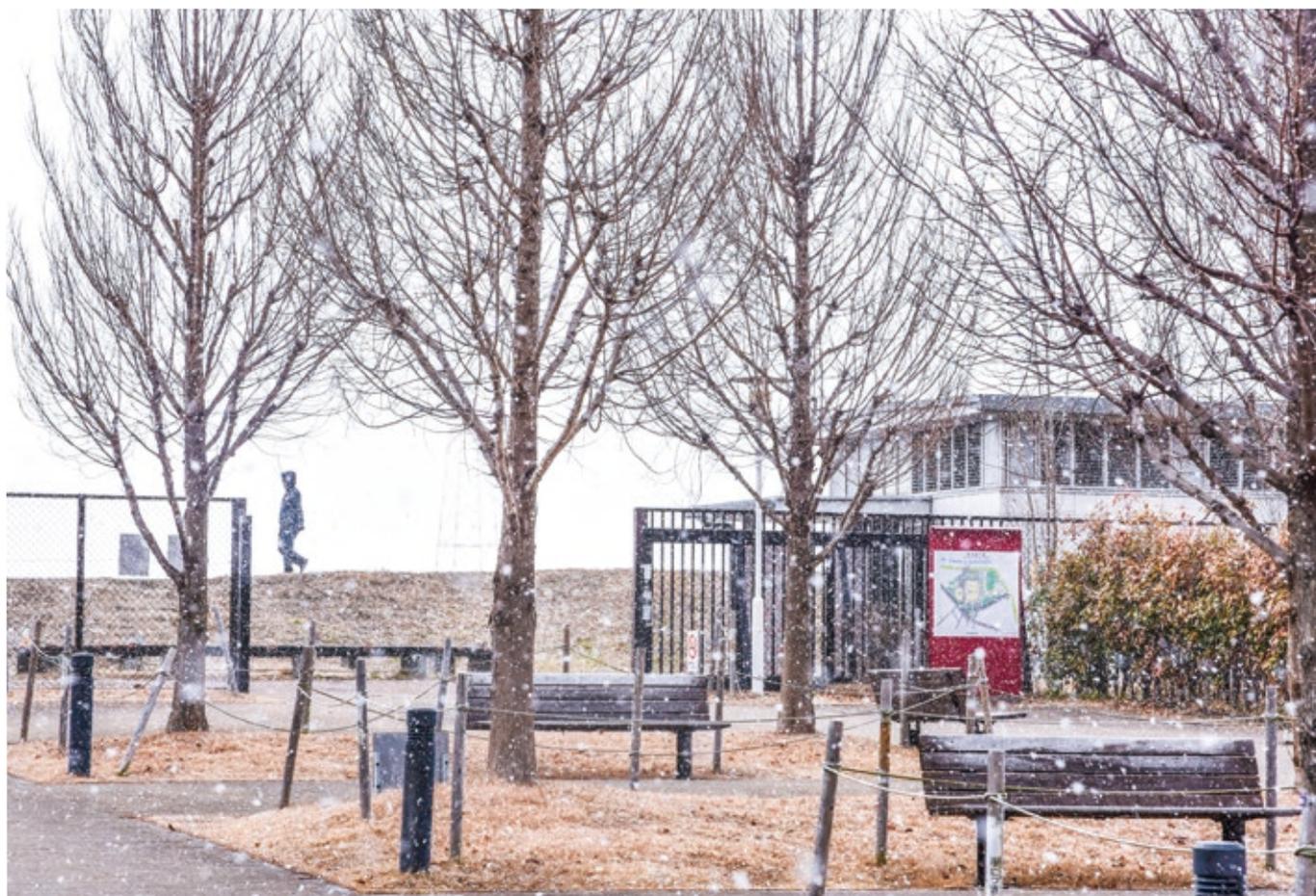


# 関西医科大学 広報



応募作品全65点の中から、「学長賞」に選ばれた作品です(撮影:清水 謙太 附属病院管理課広報係(所属は当時))。

## 創立90周年記念フォトコンテスト 学長賞受賞作品「雪」

Vol.44

### CONTENTS

法人：理事長年頭所感、賀詞交換会	P.1～	病院：枚方DB-ERCPセミナー	P.18
大学：学術祭・ひらかた市民大学	P.11	病院：TAKE! ABI 2018 in KANSAI	P.20
大学：ヴィリニウス大学(リトアニア)と協定締結	P.14	附属看護専門学校：ホームカミングデー	P.21

## 理事長年頭所感・賀詞交換会

1月4日(金) 16時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」について、本学の現状を発表。また今後の計画や方針・目標を語りました。



厳かな雰囲気の中、年頭所感が表明された



挨拶する友田学長

### 賀詞交換会(枚方学舎)

枚方地区では年頭所感表明の後、枚方学舎医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院・附属看護専門学校から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

友田幸一学長は新年の挨拶の中で、国際化における課題やゲノム医療の進歩について語り、多方面でのさらなる進化を誓いました。また、乾杯の挨拶は附属病院澤田敏病院長(常務理事)が務め、関西医大の飛躍のため職員全員が一致団結し、邁進していきたいと述べました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。



乾杯の音頭をとる澤田病院長

### 賀詞交換会(総合医療センター)

総合医療センターと天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会は、総合医療センター南館3階大会議室にて行われました。総合医療センター杉浦哲朗病院長は「今年は関医訪問看護ステーション・滝井の開設やリハビリテーション科の充実などもあり、さらなる発展に向けてチャレンジの年としたい」と抱負を述べ、天満橋総合クリニック浦上昌也院長が「旧OMMメディカルクリニック開設50周年の節目の今年、職員一同スクラムを組んで取り組んでいきたい」と述べて音頭を取り、全員で乾杯しました。



挨拶する杉浦病院長

### 賀詞交換会(香里病院)

香里病院では、8階会議室で賀詞交換会が行われました。神崎秀陽病院長(常務理事)から、現在香里病院は私立医大の全附属医療機関のうち収支差額で21番目、300床以下の病院の中では全国トップの非常に良好な成績を収めており、今年は院長として医師、事務、コメディカルなどの増員を目指し、病院全体の活気を上げたいとの挨拶がありました。

乾杯の後、教職員がそれぞれ歓談しました。



挨拶する神崎病院長

### 賀詞交換会(くずは病院)

くずは病院では、2階職員食堂で賀詞交換会が行われました。今村洋二病院長が「昨年、関西医大グループとして大きな問題もなく過ごせたのは職員のお陰だと感謝している。今年は看護学部やリハビリなど、診療という意味でも教育という意味でもくずは病院にとって大きな意義を持った一年になるので、職員全員で一丸となって取り組んでいきたい」と挨拶。乾杯の後、職員がそれぞれ歓談しました。



挨拶する今村病院長

## 内科学第一講座呼吸器・感染症内科担当診療教授に就任して

内科学第一講座呼吸器・感染症内科担当診療教授 宮下 修行



2019年1月1日付で内科学第一講座呼吸器・感染症内科担当診療教授を拝命いたしました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。私は、年号が昭和から平成に変わる年に医師となり、再び年号が変わる新たな年に関西医科大学で勤務させて頂くこととなり、大変光栄に思っています。

大学院は基礎系の微生物学教室にお世話になり、以後、感染症の研究を継続しております。感染症診療の基本は、Host-Parasite Relationshipを把握することはいうまでもありませんが、微生物学教室では主に、菌体からみた感染症アプローチを学びました。とくに菌体検出法の開発や評価に従事し、なかでも分子生物学的手法が最も優れた検査法であると信じて疑いませんでした。ただ臨床現場に戻った時、目の前に座っている患者の抗微生物薬選択に寄与できないことに気づきました。実地医療の先生方が求めるものは何か？非専

門医の先生方が求めるものは何か？求めるものは迅速性であり、検査結果が抗微生物薬の選択に役立つことです。これは耐性菌対策にも直結します。しかし、迅速だが簡便性に欠ける検査法は実地医療で有効活用されません。より良いsyndromic approachを確立することが私の夢です。

これまで診療、研究、教育と、あらゆる方面で皆様から温かいご指導を頂戴してまいりました。今後は関西医科大学に少しでも貢献できるよう努力したいと考えております。関係各位におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

### 略歴

1989年 3月	川崎医科大学卒業
1991年 4月	川崎医科大学大学院医学研究科(微生物学教室)入学
1995年 3月	川崎医科大学大学院医学研究科博士課程修了
1995年 4月	川崎医科大学 呼吸器内科学教室臨床助手
1997年 4月	米国ワシントン大学 病原微生物学教室研究員
1998年 4月	川崎医科大学呼吸器内科学教室講師
2011年 4月	川崎医科大学総合内科学1教室准教授
2019年 1月	関西医科大学内科学第一講座呼吸器・感染症内科担当診療教授

## リハビリテーション医学講座診療教授に就任して

リハビリテーション医学講座診療教授 菅 俊光



この度、2018年11月1日付けでリハビリテーション医学講座診療教授を拝命させて頂きました。私にとりましては光栄の至りであり、その職責の重さに身の引き締まる思いです。これまでご指導、ご支援いただいた関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。私は、

1988年3月に関西医科大学を卒業した後、小川亮恵教授が主宰されていました整形外科学講座へ入局しました。旧附属病院、附属香里病院、附属洛西ニュータウン病院などで整形外科医として勤務した後、旧附属病院にリハビリテーションセンターが開設されたのを機に帰向しました。ここが、私のリハビリテーション科医師としてスタートです。その後は、附属枚方病院(現附属病院)リハビリテーション科で勤務したのち、2007年11月から再び附属滝井病院(現総合医療センター)リハビリテーション科で勤務しています。

今回の診療教授に求められる主な職務は、総合医療センターにおける急性期医療から在宅医療へ向けた大学病院が行う医療・介護連携モデルの構築、具体的には訪問看護・訪問リハ・通所リハなどの介護・福祉部門の開拓と育成です。私にとってはまだ熟知できてい

ない分野ですが、今はリハビリテーション科医師として働き始めた頃のドキドキ感とワクワク感を感じています。

2018年は、私にとって卒後30年の節目の年でありました。30年の経歴のうち、27年6ヶ月を関西医大にお世話になり、そのうちの23年は「滝井」にいます。医学生時代を含めるとさらに時間は増え、「滝井」に縁を感じるとともに、愛着を持っています。今後は、総合医療センター・滝井地区における医療・介護・福祉の発展に貢献できればと考えています。これからも、ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

### 略歴

1988年 3月	関西医科大学卒業
1988年 6月	関西医科大学整形外科学講座入局、附属病院(滝井)整形外科研修医
1989年 1月	附属香里病院整形外科研修医
1996年 4月	附属洛西ニュータウン病院整形外科助手
1999年 5月	附属病院(滝井)整形外科医員 総合リハビリテーションセンター専任医
1999年10月	関西医科大学整形外科学講座助手
2004年 5月	関西医科大学整形外科学講座講師 附属病院(滝井)リハビリテーション科科長
2006年 1月	附属枚方病院リハビリテーション科科長
2007年11月	附属滝井病院リハビリテーション科部長
2012年 1月	関西医科大学整形外科学講座准教授、附属滝井病院病院教授
2018年 1月	関西医科大学リハビリテーション医学講座准教授
2019年 1月	関西医科大学リハビリテーション医学講座診療教授

## 平成31年度看護職内定式と、懇親会を開催

2018年10月6日(土) 10時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において平成31年度入職予定看護職内定式が、続いて11時から3階学生食堂において内定者懇親会が、それぞれ開催されました。この日は、看護・薬剤担当岡崎和一理事(内科学第三講座教授)を始め、法人事務局安田照美統括看護部長、附属病院看護部島村里香部長、総合医療センター看護部谷田由紀子部長、香里病院看護部安本マリ部長らが臨席。

内定式では、岡崎理事と安田統括看護部長が挨拶を述べた後、代表者に岡崎理事から内定証書が手渡されました。その後、附属病院感染制御部大石努管理師長が講演。内定者は熱心に耳を傾けていました。

懇親会では、先輩看護師を交えた数グループに分かれて歓談し、ビンゴゲームなどを通じて互いに親交を深めていました。

## 関西医科大学創立90周年記念事業募金のご案内

創立90周年記念事業募金の第2期を鋭意推進中です。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 【募集要項】

#### 1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人  
なお、同窓会会員には牧野講堂(武道館)建設募金といたします。

#### 2. 募資金額

1口10万円、申込口数1口以上。

多数口のご協力をお願い申し上げます。1口未満もありがたくお受けいたします。

#### 3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印のうえ、返信用封筒にてお申込ください。

寄付申込書は右記の3種類をご用意しておりますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書(個人用)

・法人の場合：受配者指定寄付金申込書  
特定公益増進法人申込書(法人用)

#### 4. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。

#### 5. お問い合わせ先

関西医科大学法人事務局募金室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344  
メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp  
URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

なお、この募金の応募は任意です。

### 【税制上の優遇措置】

#### ●個人の場合

##### ■所得税(どちらか一方の制度を選択)

##### (A) 所得控除 (「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

##### (B) 税額控除 (「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

##### ■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。

詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

#### ●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

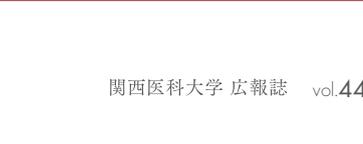
最大40%が減額されます

創立90周年記念事業募金として平成30年10月1日から平成30年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成30年12月31日までの寄付金累計額は3億9,841万2,460円です。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。



## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月6日	看護部入職予定者対象内定式	
	10月20日・11月17日・12月15日	医療健康セミナー	
	1月4日	年頭所感表明・賀詞交換会	
	1月4日	関医訪問看護ステーション・滝井開設 ※	
大学	1月4日	関医ケアプランセンター・滝井開設 ※	
	10月2日	医療ニーズ発表会	
	10月10日	ヴィリニウス大学(リトアニア)と学術交流協定締結	
	10月10日	枚方産学公連携プラットフォーム主催「高齢者化粧教室」	
	10月21日	慈仁会全国懇談会	
	10月22日	教員と学生との懇談会	
	10月22日	国際交流セミナー「米国のリハビリテーション事情・退院後の関わりを含めて」	
	10月23日	実験動物慰霊祭	
	10月26日	先端がん医療セミナー	
	10月30日	マヒドン大学(タイ)と学術交流協定締結	
	10月31日・11月30日	大学院企画セミナー	
	11月2日	名誉教授称号授与式	
	11月3日・4日	霜月祭2018	
	11月3日	子ども大学探検隊	
	11月3日	看護学部保護者会	
	11月15日	がん支持療法セミナー	
11月17日・18日	第二回学術祭		
11月18日	ひらかた市民大学		
11月21日	大学院教育ワークショップ		
12月6日	国際交流フォーラム		
病院	12月19日	大学院医学研究科説明会	
	10月20日	平成30年度災害訓練	
	11月17日	看看連携の会	
附属病院	12月10日	医療安全大会	
	10月19日	関医・健康塾	
	10月24日	病院ボランティアの集い	
	10月31日	枚方DB-ERCPセミナー	
	11月28日	がん教育出張授業	
	12月5日	アレルギーセンター教諭向けセミナー	
	12月9日	市民公開講座(整形外科)	
総合医療センター	12月15日	クリスマスコンサート	
	10月6日	市民健康講座	
	10月21日	TAKE! ABI 2018 in KANSAI	
	10月21日	日曜乳がん検診	
	11月17日	世界糖尿病デーフェスタ	
香里病院	11月17日	肝臓病教室	
	10月6日	市民公開講座	
附属看護専門学校	10月21日	ピンクリボン検診	
	10月6日	ホームカミングデー	
卒後臨床研修センター	12月19日	キャンドルサービス	
	10月12日・13日	臨床研修指導医養成講習会	
	11月17日	2020年度採用研修説明会	
	12月12日	附属病院研修管理委員会	
	12月12日	総合医療センター研修管理委員会	
	12月12日	看護教育担当者研修	

※詳細は次号で紹介する予定です。

## 第2回学術祭開催

2018年11月17日(土)・18日(日)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、「第2回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる進展を目的に、これまで行われていた「学内学術集談会」を発展させたもので、昨年に引き続いての開催となりました。初日は耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座岩井大教授の「開催の辞」、友田幸一学長の挨拶で幕を開け、2日間で延べ208名が参加しました。



開催の辞を述べる岩井教授



挨拶する友田学長



ミニシンポジウムの様子

### 【主なプログラム】

#### ■ 看護学部ミニシンポジウム「高度実践看護師の役割と教育」

看護学部成人領域林優子教授、同こども領域加藤令子教授、同基礎領域安酸史子教授が登壇し、それぞれ専門看護師、ナースプラクティショナー、臨床看護教育者について説明した後、質疑応答が行われました。

#### ■ 対談～関西医科大学とこれからの国際交流～

看護学部基礎領域近藤麻理教授、外科学講座土井崇診療教授が登壇し、自身の海外での経験や本学の国際交流の展望について語りました。

#### ■ KMU研究コンソーシアム

5名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

#### ■ ランチョンセミナー「漢方でもっと治そう！」

くが耳鼻咽喉科(愛媛県松山市)久我正明院長による講演が行われました。

#### ■ 「医学会賞公募演題口演」

12名の演者による口演が行われました。

※受賞者は4月発行予定の「広報Vol.45」にてご紹介する予定です。

#### ■ 「ポスター発表プレゼンテーション」

留学生、大学院生、研究医養成コース学生により、「ポスター発表プレゼンテーション」とそれに先立つフラッシュトークが行われました。

#### 【受賞者】

平成29年度学内研究助成D1(若手研究者) D2(大学院生)

・D1 1位: 近藤 直幸 助教(分子遺伝学部門)

「リンパ球接着制御に関わる細胞内因子間クロストークの動的分子解析」

・D2 1位: 赤川 翔平 病院助教(小児科学講座)

「分娩様式および栄養方法が新生児の腸内細菌叢に与える影響」

平成30年度学内研究助成E(研究医養成コース)

・1位: 渡辺 千映(医学部4学年: 分子遺伝学部門)

「インテグリン $\alpha 4 \beta 7$ 接着制御メカニズムの解明」

## ひらかた市民大学2018開講

2018年11月18日(日)10時から枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて「ひらかた市民大学」が開講されました。これは枚方市と市内5大学が学園都市ひらかた推進協議会を通して毎年開催しているもので、本年は産学公連携プラットフォームと連携して開催され、事前に申し込んだ市民ら50名が参加しました。

今年のテーマは「医療と介護の連携を目指して～住み慣れた地域での療養生活を多くの職種が連携して支援します～」と題し、友田幸一学長の挨拶の後、香里病院高山康夫理事長特命教授が香里病院で取り組んでいる医療と介護の連携について、訪問看護ステーションやデイケアセンター、居宅介護支援事務所の事例を含めて講演。

続いて行われたリハビリテーション医学講座長谷公隆教授による「新しいリハビリ機器紹介」では、デイケアセンター香里で実施している最新の機器を使用したリハビリテーションが紹介されました。

その後、訪問看護やリハビリに従事している看護師、理学療法士、ケアマネージャからそれぞれの役割の紹介と質疑応答が行われ、参加者からは独居の方に対する介護などに関する質問がでました。

会場には講演の中で紹介されたりハビリ機器が体験できるコーナーが設けられ、参加者が理学療法士に説明を受けながら体験する様子が見られました。



参加者からの質問に回答する高山理事長特命教授(写真左奥)

## 2018年度霜月祭「∞～医ンフィニティー～」

2018年11月3日(土・祝)・4日(日)の両日、枚方学舎各所において「2018年度霜月祭」が開催されました。今年は初日の10時から、中庭に設置された特設ステージでのオープニング企画で開幕。2日間にわたって、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部の演技、カラオケ大会やビンゴゲームなど、多彩な企画が繰り広げられました。

また今年も、各クラブが模擬店を出店。留学生らによる「KMU International Cafe」も出店され、ベトナム料理や中華料理が各国からの留学生によって振る舞われました。

さらに1階オープンラウンジでは、医科大学ならではの企画「医学博」が開催され、BLS(一次救命措置)体験、外科医の手技を体験できる「糸結び」、附属病院で医師

が着用しているスクラブを試着できる体験コーナー、老人・妊婦体験など、さまざまな企画が実施されました。



オープニング企画で風船を飛ばす参加者



軽音楽部による演奏



出身国の料理をふるまう留学生

## 2018年度大学院企画セミナー

2018年10月31日(水)と11月30日(金)、いずれも17時30分から、2018年度大学院企画セミナーが開催されました。これは大学院生を対象とした毎年恒例の企画で、研究現場の最前線で実績を上げている著名な研究者を招き、最先端医学研究に関する知見や一流の考えに触れる機会を提供するためのものです。

第一回目は枚方学舎医学部棟1階第1講義室において、東北大学大学院医学系研究科医化学分野山本雅之教授が講演。詰めかけた71名の教職員を前に、山本教授が「東北メディカル・メガバンクの構築と生体の酸化ストレス応答研究」と題し、世界でも屈指の規模と実績を誇る生体データバンク、東北メディカル・メガバンクの立ち上げから現在までの歩み、実績を紹介。また、同バンクの成果でもある

生体組織の酸化ストレス応答系に関する研究の、個別化予防における応用について解説しました。

第二回目は枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、理化学研究所多細胞システム形成研究センター網膜再生医療研究開発プロジェクト高橋政代プロジェクトリーダーが講演を行いました。

79名の教職員を前に、高橋プロジェクトリーダーが「網膜再生治療開発物語」と題し、研究者を志したきっかけや、2005年に世界で初めてES細胞から神経網膜を分化誘導することに成功したこと、iPS細胞による加齢黄斑変性治療の臨床試験を実施するまでの歩み、実績などを講演。また、iPS細胞を用いた網膜再生医療の現場と問題点などが紹介され、参加者は最先端の話題に熱心に耳を傾けていました。



講演の様子と山本教授(画面奥)



質問に答える高橋プロジェクトリーダー(左側)

## 慈仁会全国懇談会を開催

2018年10月21日(日) 11時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂、同1階試験実習室、第1～4講義室他各所において、慈仁会全国懇談会が開催されました。全国各地から本学医学部学生の保護者が集まった他、友田幸一学長や福永幹彦学生部長、野村昌作医学部教務部長など教職員らあわせて、340名が参加。懇談会は慈仁会西川睦彦会長の挨拶で幕を開け、続いて友田学長が本学の現況と近未来を講演し、福永学生部長が学生生活の概況を、野村医学部教務部長がカリキュラムの現状を解説しました。

その後は学年別に、数学教室北脇知己教授(1学年)、生物学教室平野伸二教授(2学年)、法医学講座赤根敦教授(3学年)、衛生・公衆衛生学講座西山利正教授(4学年)、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座岩井大教授(5学年)、脳神経外科学講座浅井昭雄教授(6学年)の、各学年クラスアドバイザーと保護者が懇談を行いました。また、懇談会に続いて学内参観も行われ、保護者は学生が

普段過ごしている図書館やシミュレーションセンター(以上医学部棟3階)を見学。学生食堂・歴史資料室(以上同3階)、カフェテリア(同4階)、オープンラウンジ(同1階)など、保護者は興味深そうに見学していました。



本学の現況について講演する友田学長

## 平成30年度「看護学部保護者会臨時総会」を開催

2018年11月3日(土・祝) 10時から枚方学舎看護学部棟2階講義室1において、看護学部1学年の保護者21名と看護学部教員20名が参加し、「平成30年看護学部保護者会臨時総会」が開催されました。

臨時総会開催にあたり、冒頭に友田幸一学長が挨拶。続いて片田範子看護学部長、福永幹彦学生部長、近藤麻理学生副部長が順に看護学部の現状と学生の様子などについて報告しました。引き続き開催された臨時総会では「看護学部保護者会役員」の選出が行われ、藍原雅代会長、三宅千鶴理事、橋本廣明監事、後藤千秋会計の4名が第1期の役員として選出されました。新たに就任した藍原会長が議長となり、平成30年度看護学部保護者会事業計画、平成30年度予算(案)などが審議され、全ての議事が賛成多数により承認されました。

また、臨時総会終了後には茶話懇談会、希望者による個別面談が開催され、茶話懇談会では授業や部活動・サークル、大学での学生生活を中心とした話題に保護者と教職員との会話も弾み、保護者と教職員との盛んな交流の場となりました。

## 第44回実験動物慰霊祭挙行

2018年10月23日(火) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「第44回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や木梨達雄副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、参加者全員で黙とうを捧げたのち、実験動物飼育共同施設平野伸二施設長(生物学教室教授)が慰霊の辞を捧げ、これまでの医学の発展は、実験動物の存在なくしてはなし得ないものだったこと、今後も人類のみならずすべての生命の尊厳を追求するため、社会的に適切に動物実験を行っていく必要がある旨を述べました。その後、15時まで加多乃講堂に設けられた献花台に、研究者や教職員が次々と慰霊に訪れました。



慰霊の辞を読み上げる平野伸二実験動物飼育施設施設長

## ヴィリニウス大学（リトアニア）と学術交流協定締結

2018年10月10日(水)、本学とヴィリニウス大学(リトアニア)は新たに学術交流協定を締結しました。

ヴィリニウス大学はリトアニア共和国ヴィリニウス郡ヴィリニウス市に本部を置く国立大学で、1579年に設置されたこの地方では最も古い大学の一つです。

本学外科学講座里井壯平診療教授の紹介で、両大学の医学教育発展、教員の能力開発、研究の進展を目的に、ヴィリニウス大学からの研究者、留学生の受け入れや本学からの教職員、臨床実習生の派遣など、諸方面で協力体制を構築する予定です。

ヴィリニウス  
の街並み



協定書

## 国外臨床実習先等を視察・マヒドン大学と学術交流協定締結

2018年10月24日(水)～11月1日(木)まで、本学の更なる国際交流の発展に向けて、海外の大学・機関の視察が行われ、友田幸一学長、国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)、国際交流センター西山利正前センター長(衛生・公衆衛生学講座教授)がアジア諸国を歴訪しました。

大学の国際化と将来の国際大学院構想を視野に、新たな留学生の受け入れや国外臨床実習先を模索する目的で、マヒドン大学ラマティボディ病院(タイ)、ラオス国立健康科学大学(ラオス)を、また共同研究協定の締結をめざし、ベトナム国家大学ホーチミン市校自然科学大学 Stem Cell Institute (ベトナム)を、さらにこれまで本学と国際交流を行っているマレーシア国立循環器病センター(マレーシア)およびハノイ医科大学(ベトナム)を訪

問しました。

また、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部と本学とは今回、新たに学術交流協定を締結しました。



友田学長(左)とPiyamitr Sritara学長(マヒドン大学)

## 長尾教授が来日し、国際交流セミナーに登壇

2018年10月22日(月)17時15分から枚方学舎医学部棟2階学生セミナー室2Cにおいて、第6回国際交流セミナーが開催されました。国際交流センター鈴鹿有子センター長司会のもと、第1回から続けて講師を務めるカリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)整形外科長尾正人教授が登壇。アメリカにおける理学療法士や作業療法士、言語聴覚士の役割や、退院後の生活支援までを含めたりハビリテーション治療の特徴について講演しました。くずは病院今村洋二病院長を始め、リハビリテーション医学講座長谷公隆教授、菅俊光准教授、健康科学教室木村穰教授ら教員の他、来年4月から国外臨床実

習で留学することになっている学生など、26名が熱心に耳を傾けていました。



セミナーの最後に記念撮影を行った長尾教授と出席者

## 国際交流フォーラム2018開催

2018年12月6日(木) 17時30分から、海外からの留学生、研究員16名に加え、本学学生と教職員合わせて総勢35名が集い「国際交流フォーラム2018」が枚方学舎医学部棟3階学生食堂において開催されました。

会の冒頭、司会の国際交流センター鈴鹿有子センター長の開会宣言後、友田幸一学長から挨拶と2021年完成予定の本学タワー棟(仮称)が海外からの来客向けであることなどに触れながらグローバルな結びつきについて語られました。全員での乾杯で幕を開け和気藹々の会の中盤、本学大学院医学研究科医科学専攻で学ぶ中華人民共和国からの留学生、マ・エンエンさん(形成外科学)、サ・リンケンさん(臨床病理学)、マー・ニーさん(皮膚科学)、続いてベトナム社会主義共和国からのツァン・グウェン・トゥク・リンさん(内科学第二)、チュ・ホン・ハンさん(附属生命医学研究所生体情報部門)、最後にモンゴ

ル国からのドルジラプタン・ムンフジャルガルさん(整形外科学)がそれぞれ故郷の様子や研究内容、日本生活について映像を交えながら発表しました。名残惜しむよう最後に参加者全員で記念写真を撮り、友好の輪が広がる中、会が無事終了しました。



参加者全員での記念撮影

## 大学体験事業「一日お医者さん！」開催

2018年11月3日(土・祝) 13時から、枚方学舎医学部棟と附属病院において枚方市内在住および市内の学校に通う小中高生を対象とした平成30年度子ども大学探検隊・中高生大学体験事業「一日お医者さん!～今の医学にふれる体験学習～」が開催され、抽選で選ばれた児童・生徒26名が参加しました。これは、学園都市ひらかた推進協議会が行う事業の一環で、枚方市と市内5大学が連携して「魅力あるまちづくり」を目的として行われたもの。本学においては4回目の開催となりました。

当日は冒頭友田幸一学長が挨拶した後、小学生と中高生が3グループに分かれ、附属病院の放射線部、臨床検査部、手術部などを見学。枚方学舎医学部棟3階シミュレーションセンターでは手洗い指導体験や内視鏡シミュレーター体験、BLS(一次救命処置)、血液観察が行われ、

その際には附属病院小児外科土井崇診療教授や耳鼻咽喉科神田晃講師らによる詳しい解説もあり参加者全員、真剣な眼差しで学んでいました。最後に枚方市役所産業文化部生涯学習課赤土孝史課長からの挨拶の後、友田学長から修了証が参加者全員に手渡されました。



説明を聞く参加者ら

## 関西医大ブランドの創出を狙い、医療ニーズ発表会を開催

2018年10月2日(火) 17時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、本学で初めての試みとなる「医療ニーズ発表会」が開催され、医工連携のきっかけを求めて全国からメーカー担当者など82名が参加しました。これは産学連携知的財産統括室が主導したもので、医師や看護師などの臨床スタッフが日々の業務で感じる課題や実現したいニーズを全国のメーカーや研究機関に発表し、そこから医工連携のきっかけを探るための取り組みです。

冒頭、友田幸一学長が「臨床現場では“〇〇したい”と思っても、どうやれば実現できるかわからないことがよくある。今回の取り組みではそうした課題の解決はもちろん、世界に通じる関西医大ブランドの誕生も期待している」と、開会挨拶を述べました。続いて一般社団法人日本医工ものづくりコンベンツ柏野聡彦専務理事が日本の医工連携の現状を説明した後、本学の医師・研究者・

看護師などが延べ25種のテーマについてプレゼン。参加者は各ニーズに対する評価コメントを記入しながら、熱心に耳を傾けました。

また、合わせて発表者と参加者との間で名刺交換会が開催され、参加者は興味を持ったテーマの発表者と将来の連携実現に向けて、名刺と情報を交換。最後に産学連携知的財産統括室塩島一朗室長の挨拶をもって、閉会となりました。



名刺交換会の様子

若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。  
※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方にインタビューする連載企画です。

生物の24時間周期「概日リズム」の仕組みを解き明かす

先生の研究テーマについて教えてください

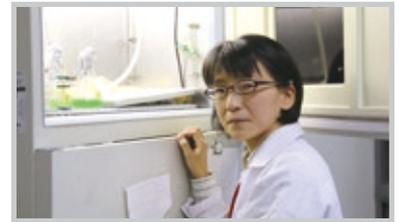
「時計蛋白質の分解制御によるシアノバクテリアの概日振動安定性機構の解析」です。「概日リズム」とはヒトなどの高等生物も持つ24時間周期のリズムで、光が遮断された環境などでも自律的に約24時間周期で変動します。原核生物であり、概日リズムを持つ中では最も原始的な生物と言われるシアノバクテリアの概日時計は、3つの時計タンパク質KaiA、KaiB、KaiCにより構成されていることがわかっており、これらのタンパク質時計がどう細胞内での安定な時計を制御しているかをKaiCの分解制御に注目して研究しています。

3つのタンパク質とATPの混合によりKaiCのリン酸化振動として、試験管内で24時間振動を再構築できます。しかし、細胞レベルでの安定的な24時間振動の全容は明らかにはなっていません。細胞内で、KaiCは転写翻訳フィードバックに制御され、KaiC量、リン酸化レベル、KaiCの合

成・分解速度が概日振動します。

まず、KaiC分解速度を促進した変異体では、タンパク質の蓄積量の減少と共にリズムが不安定化し、分解速度の適切な調節がリズムに重要であることを確認しました。さらに、in vitroでの分解活性の解析により、脱リン酸化型KaiCの分解が速い事、細胞内にKaiCを分解する何かしらの因子がある事を示唆しました。そこで、KaiCの分解を制御するタンパク質を探索すべく解析を行ったところ、候補因子が複数得られ、in vitro免疫沈降法によりKaiCと結合する因子をいくつか確認しました。今後はin vivoでの候補因子のKaiCとの結合の確認やシアノバクテリアの候補遺伝子破壊株、過剰発現株を用いて、概日リズムへの影響を確認する予定です。

概日リズムはヒトでも睡眠障害やうつ、がんなど様々な疾患との関わりが指摘され、投薬の時間を調節する「時間治療」など、医療の現場でも注目されてきていま



生物学教室  
岡野 圭子 講師

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2015年 日本学術振興会 科学研究費助成事業若手研究(B)
- ・2018年度 住友財団 基礎科学研究助成

す。シアノバクテリアの概日リズムの仕組みを解明することで得られた知見をヒトにも応用できるのではと考えています。

後輩研究者にメッセージを

研究には、ラボ内のみならず、他のラボの人々とのコミュニケーションも大切です。学生時代から学会にも出ることがおすす。部屋にこもるだけでなく、積極的に外に出て横のつながりを作ってみることが、きっと後の研究にも役立ちます。

難病の抑制に新たな可能性を

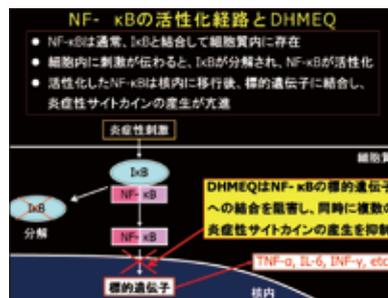
先生の研究テーマについて教えてください

小児腎臓病におけるバイオマーカーの研究や新規NF-kB阻害薬であるDHMEQの薬剤効果に関する研究を行っています。

小児の腎盂腎炎では特定のバイオマーカーの数値が低い患者さんは通常の患者さんよりも再発の確率が高く、尿路の自然免疫との関連で、数値が低いほど免疫力が弱く感染しやすいことを解明しました。既存のバイオマーカーの新たな可能性を探るだけでなく、新規のバイオマーカーも研究し、疫学や治療につながる可能性を探っています。

また、新薬(新規NF-kB阻害薬・DHMEQ)を用いて、難病や致死性疾患抑制につながる可能性を探っています。具体的には、敗血症やネフローゼのモデルマウスにDHMEQを投与し治療効果を認めた実験結果をもとに、GVHD\*モデルマウスにDHMEQを投与することでGVHDを抑制できることを明らかにしました(図参照)。私たちや他の研究者の研究結果が認められ、現在、欧州を中心に治験が行われています。現在は新たに全身性エリテマトーデスのモデルマウスにDHMEQを投与

する研究も行っています。小児科の特徴は全身を見ることにあり、私も専門の腎臓と新生児のみならず、前述のように血液や膠原病など幅広く研究を行っています。



研究者を志したきっかけを教えてください

出向先の病院で、発症から最短で適切な治療を行ったにもかかわらず重篤な後遺症が残った患者さんを目の当たりにしたことがきっかけ。治療の限界を打破するためには臨床だけではなく研究が必要だと思い医師6年目に大学院生となりました。

どのような気持ちで研究に取り組んでいますか

未だ明らかになっていない知見を明らかにすることで患者さんに還元したいという気持ちを持っています。研究は目の前の患者さんだけでなく、未来の患者さんをも助ける力を持っています。一つ



小児科学講座  
山内 壮作 助教

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2015年 公益財団法人ダノン健康栄養財団平成27年度学術研究助成金
- ・2015年 第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集学会賞受賞(臨床研究部門)
- ・2015年 第51回近畿小児腎臓病研究会 推薦演題受賞
- ・2016年 第52回近畿小児腎臓病研究会 推薦演題受賞
- ・2016年 第51回日本小児腎臓病学会学術集会 推薦演題受賞
- ・2016年 第53回近畿小児腎臓病研究会 推薦演題受賞
- ・2016年 日本学術振興会 科学研究費助成事業若手研究(B)
- ・2017年 第39回小児腎不全学会優秀演題賞受賞

一つの発見は小さくとも、それらの積み重ねが大発見につながり、普及していくことで世界中に貢献できる夢のあるものだと思います。

※GVHD(移植片対宿主病)・・・ドナーの臓器・血液が、免疫応答によってレシピエントの全身組織を攻撃、破壊することによって起こる症状の総称で、原因・治療は確立されていない。

病 院 **第15回医療安全大会開催**

2018年12月10日(月) 17時30分から、附属病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3病院4会場を遠隔会議システムで結び、「第15回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院373名、総合医療センター173名、香里病院67名の計613名が参加しました。

医療安全管理センター金子一成センター長が司会を務め、開会に先立ち、山下敏夫理事長ならびに附属病院澤田敏病院長から挨拶がありました。挨拶では、本法人を取り巻く医療安全の現状、医療における安全の重要性

と安心した医療を提供することを再認識するという本会の目的などが語られました。

3病院から5名の演者が、各病院での医療安全・感染制御に関する取組みや事例の発表を行い、発表の後には質疑応答の時間も設けられ、遠隔中継された病院間で他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと、積極的に質問する姿が見られました。閉会挨拶では総合医療センター杉浦哲朗病院長から、インシデントだけでなく成功例も含む多岐にわたる事例の発表へのねぎらいの言葉があり、会が締めくくられました。



附属病院会場の様子



総合医療センター会場の様子



香里病院会場の様子

**【当日の発表プログラム】**

- 第一部** <附属病院> 座長：医療安全管理部 岡崎和一 部長  
 「胸腔穿刺後の急変・死亡事例2例の検討」……………附属病院呼吸器外科 齊藤朋人 講師  
 「VREアウトブレイク事例報告」……………附属病院感染制御部 大石努 管理師長
- 第二部** <香里病院> 座長：医療安全管理部 廣原淳子 部長  
 「WHO手術安全チェックリスト運用への取り組み」……………香里病院麻酔科 串田温子 助教
- 第三部** <総合医療センター> 座長：医療安全管理部 金田浩由紀 部長  
 「院内静脈血栓症発症予防にむけた体系的な戦略」……………総合医療センター血管外科 駒井宏好 診療教授  
 「带状疱疹 ～四方山話から感染制御まで～」……………総合医療センター皮膚科 清原隆宏 病院教授

病 院 **関西医科大学3附属病院“看看連携の会”開催**

2018年11月17日(土) 14時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「平成30年度大阪府訪問看護ステーション協会北河内ブロック 関西医科大学3附属病院看看連携の会」が開催されました。これは、地域の看護師や介護職、医療従事者と本学附属医療機関との連携を深めることにより、北河内医療圏における医療・看護ケアの質的向上を目指す取り組みで、今年160名が参加しました。

附属病院島村里香看護部長の挨拶に続き、同7N病棟植留美看護師(認知症認定看護師)が『認知機能が低下した方々を支えるための地域連携』と題して、認知症ケアの「これまで」と「これから」についてや認知症者とのコミュニケーションについて、実体験を交えながら紹介。続いて居宅介護支援事業グリーンヒル淳風管理者太田美代子氏と寝屋川市第六中学校区地域包括支援センター山田貴之センター長による講演『独居(愛犬と暮らす)で認知症とアルコール依存男性の地域での数々の語りつくせないエピソード』では、1人の認知症患者についてケア

マネージャーの視点から一連の支援の中でのエピソードとその考察が語られました。

また、総合医療センター谷田由紀子看護部長による閉会挨拶の後、会場を枚方学舎医学部棟3階学生食堂に移し、懇親会を開催。普段じっくりと話す機会の少ない地域の医療従事者と本学関係者が、膝を突き合わせて親睦を深めました。



参加者からの質問に答える演者

**病院** 災害訓練を実施

2018年10月20日(土)9時から、附属病院第12回災害訓練が実施されました。今回の訓練は医師や看護師ら約200名に加え、附属看護専門学校生が参加。本番に即した訓練として、搬送される患者数、各ゾーンへの患者数は事前には知らされておらず、現場で対応にあたるスタッフには臨機応変な対応が求められました。また、この訓練では枚方保健所を中心とする地域医療救護本部、医療機関等との連携についても検証されました。

また同日9時から、総合医療センターと門真市南部市民センター、社会福祉法人蒼生会蒼生病院他各会場において、第13回災害訓練が実施されました。これは、大阪府守口保健所管内の関係機関が協働して大規模地震発生を想定した訓練を行い、相互に情報の共有を図って地

域連携を強化するとともに、地域課題の明確化を狙って実施されたものです。総合医療センターからはDMATや救急医学科の医師を始め、模擬傷病者役として教職員ら約50名が参加しました。



模擬傷病者を搬送する訓練参加者

**附属病院** 附属病院で「関医・健康塾」を開講

附属病院看護部は、同1階センターアトリウム北側において実施する「関医・健康塾」をスタートさせました。これは、患者さんやそのご家族が診察までの待ち時間を有意義に活用できるよう、看護部の発案で始まった取り組み。“がん”や“糖尿病”など身近な病気をテーマに診断・治療・その後のケアなど、患者さんの療養方法や医療情報に関してご家族とともに正しい知識を得る機会として、また、通院治療中のセルフマネジメント支援を目的に、毎回切り口を変えて現役看護師が講師として登壇し、解説するものです。

初回となった2018年10月19日(金)は、附属病院がんセンターがん性疼痛看護認定看護師松森恵理外来師長が登壇し、「がんとの上手な付き合い方」を講演。がんの罹患率や同院における緩和ケアの現状などに、参加者は

熱心に耳を傾けていました。参加した患者さんからは、「疑問に思っていたことを気楽に相談できて良かった」などの意見が聞かれました。

なお、今後「関医・健康塾」は他の職種も講師として登壇し、月2回開催される予定です。



参加者からの質問に答える松森外来師長

**附属病院** 枚方DB-ERCPセミナー

2018年10月31日(水)12時から枚方市立メセナひらかた会館および附属病院内視鏡センターにおいて「枚方DB-ERCPセミナー」が開催されました。これは術後再建腸管のある患者さんの胆膵疾患に行う内視鏡治療(DB-ERCP)が2016年に保険収載となったことを受けて、国内はもとより世界においても完遂が困難な同手技の普及のため、第一人者である内科学第三講座島谷昌明病院准教授による実際の手技を見学することを目的とするセミナーで、自治医科大学など5施設の医師10名が参加しました。

セミナーはメセナひらかたでのミニカンファレンスと附属病院内視鏡センターでの手技見学会で構成され、ミニカンファレンスでは参加施設医師による症例検討会が行われました。内視鏡センターでは島谷病院准教授による手技の見学が行われ、国内はもとより隣国の韓国からも本見学会に参加があり、基本的には英語でディスカッ

ションが行われ、国際色豊かな見学会となりました。見学会では手技を行う中でのコツや見落としがちな点について実際の手技に即して島谷病院准教授から説明が行われ、参加医師からの質問について手技中の回答が難しい場合は手技終了後に振り返る形で対応されました。



手技を行う島谷病院准教授(右端)

## 附属病院 大阪府教育庁主催セミナーに本学医師が登壇

2018年11月28日(水) 14時30分から大阪学院大学(吹田市) 15号館3教室において、大阪府教育庁主催「平成30年度『がん教育』研修会」が開催され、大阪府内の中学・高校に勤務する教員らが多数参加しました。これは、教員にがんの正しい知識を身につけてもらうとともに、生徒への指導方法に関するヒントを提供し、若い人々たちへのがん教育のさらなる推進を図るために開催された研修会です。本学から附属病院放射線科中村聡明准教授(放射線科学講座)が登壇しました。

この日はまず、自身ががんサバイバーであり、現在はがん患者支援団体を主宰している一般社団法人らふ蓮尾久美代表理事が、「がん教育について ～体験者として患者、家族を支援して思うこと」と題して講演。闘病体験や支援活動を通して得られた“がん教育”についての

知見を紹介しました。その後、中村准教授が「がんについて学ぶ」を講演。がんについての基礎知識から予防、治療、そして共生まで、医療現場から見たがんについて、中高生へ教えるにはどのような点に気をつけるべきかも交えて話しました。



中学・高校の先生を前に講演する中村准教授

## 附属病院 「2018年度病院ボランティアの集い」へ参加

2018年10月24日(水) 13時30分から、ホテルアウリーナ大阪(大阪市天王寺区)において特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会主催の「2018年度病院ボランティアの集い」が開催されました。この集いは各病院の病院ボランティア、ボランティア担当職員等が集まる交流会で、この日は活動1,000時間達成者に感謝状と記念品が授与されました。

附属病院の病院ボランティアで今年1,000時間を達成<sup>※</sup>したのは、依田久美子さん。依田さんには、吉村規男理事長から感謝状が授与されました。また、これで附属病院の1,000時間達成者は9名となりました。受賞式の後はアコースティックユニットSPAPS(スパップス)によ

る演奏が披露され、参加者らは聞き覚えのある音楽に耳を傾け、楽しい時間を過ごしました。

※活動時間は活動開始からの累計



感謝状を授与される依田さん(右)

## 附属病院 アレルギーセンターが教諭向けにセミナー開催

2018年12月5日(水) 14時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、同病院アレルギーセンターによる、守口市内の小中学校に勤務する養護教諭向けセミナーが開催されました。これは、アレルギー疾患を持った児童生徒が増えている近年の学校教育現場で必要な、正しい初期対応や専門知識を啓蒙するため、附属病院アレルギーセンターと守口市教育研究会小学校養護部会が共同で実施したもので、22名が参加しました。

セミナーでは附属病院アレルギーセンター畑泰子診療講師(小児科学講座)が講師として登壇し、「子どもたちの食物アレルギー」と題してアレルギーの仕組みや診断・治療法、実際の事例に基づく学校現場での対応ポイ

ントなどを解説しました。参加した養護教諭らは真剣な表情で聴講した他、終了後は大阪府立刀根山支援学校関西医科大学附属病院分教室や小児医療センターなどを見学しました。

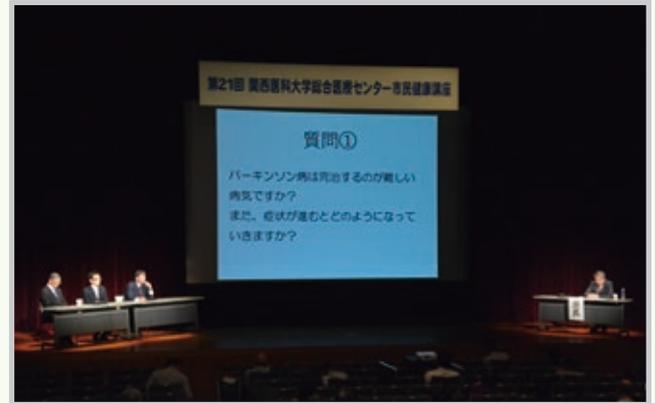


質疑応答で質問に答える畑泰子診療講師(中央奥)

**総合医療センター** 第21回市民健康講座を開講

2018年10月6日(土)14時から守口文化センターエナジーホール(守口市)において、第21回総合医療センター市民健康講座が開催されました。今回は“こんな症状困ってませんか?～手のふるえ、頻尿、背中痛み～”をテーマに行われ、市民ら約120名が参加。総合医療センター杉浦哲朗病院長の開会挨拶に続いて、同センターリハビリテーション科菅俊光准教授が座長を務め、神経内科近藤誉之診療教授が「老化と間違えない～パーキンソン病による運動障害～」を、腎泌尿器外科駒井資弘講師が「おしっこの回数が多くて(頻尿で)困ったら～治療について～」を、整形外科安藤宗治准教授が「せぼねの病気～こんな症状に注意～」を、それぞれ講演しました。

また、講演後に設けられた質問コーナーでは多数の質問が寄せられ、参加者の意識の高さが窺われました。



寄せられた質問に答える3人の演者、右は座長の菅准教授

**総合医療センター** Take! ABI 2018 in KANSAIが開催

2018年10月21日(日)10時から総合医療センター本館1階エントランスホールにおいて、「Take! ABI 2018 in KANSAI」が開催され、6回目となった今回は280名が



医師の説明を聞く参加者

参加しました。ABI (ankle brachial index)とは、手と足の血圧差から動脈硬化が起こっていないか、また重症化する可能性がないかを調べる検査で、脳梗塞や心筋梗塞の危険性を測ることができるもの。参加者は測定結果をもとに、医師から説明を受けました。

また、同日正午からは同センター南館2階臨床講堂において市民公開講座を開講。総合医療センター血管外科駒井宏好診療教授を座長に、同山本暢子助教が「アンチエイジングは脚の健康から～動脈硬化を予防して、キレイに健康に～」を講演し、参加した一般市民は興味深く聞き入っていました。

**香里病院** 市民公開講座開講

2018年10月6日(土)14時30分から、寝屋川市立地域交流センターアルカスホール(寝屋川市)において、「口腔ケアで健康寿命をのばそう」をテーマに市民公開講座が開催され、市民ら約130名が参加しました。

この日は、「知っておきたい!がんの治療と口腔ケア」をテーマに香里病院外科吉田良部長が、「周術期における口腔ケアの重要性」をテーマによしみ歯科吉富啓一院長が、それぞれ講演。

また、講演後に設けられた質問コーナーでは多くの質問が寄せられ、参加者の意識の高さが窺われました。



講演する吉田部長



## 平成30年度ホームカミングデイ開催

2018年10月6日(土) 10時から、附属看護専門学校牧野キャンパスにおいて「附属看護専門学校36期生ホームカミングデイ」が開催されました。この日は、今春学校を巣立った36期生の21名が参加。34期生の先輩4名も加わり、看護師として働いてきた中での体験談やアドバイスを共に36期生へエールを送りました。

その後、仲間同士やお世話になった教員と歓談し、最後は卒業記念に36期生が寄贈した、ハナミズキの木を囲んで集合写真を撮り、全プログラムが終了。参加者は名残惜しそうに牧野キャンパスを後にしました。



36期生が卒業記念に植樹したハナミズキを囲んで記念撮影

## 第33回キャンドルサービス実施

2018年12月19日(水) 15時30分から附属病院1階センターアトリウム及び各病棟において附属看護専門学校学生による第33回キャンドルサービスが実施されました。このイベントは日頃お世話になっている患者さんに、安らぎと希望、感謝の気持ちを伝えると共に、奉仕の精神を養うために毎年開催しています。

まず学生はグループ毎に各病棟を回り、患者さんに励ましの言葉とクリスマスカードを贈呈。最後にセンターアトリウムに集合し、クリスマスソングを合唱しました。



センターアトリウムで合唱する学生



## 平成30年度臨床研修指導医養成講習会開催

2018年10月12日(金)・13日(土)の2日間、ホテルクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「平成30年度臨床研修指導医養成講習会」が開催され、学内関係者22名、学外研修協力病院関係者3名の合計25名が受講しました。

これは臨床研修指導医に必要な講習会で、厚生労働省が定めた指針に基づき、修了証書の取得を目指して毎年実施するもの。アドバイザータスクフォースとして、聖路加国際病院福井次院長、高知医療再生機構倉本秋理事長を招聘し、ワークショップ形式での全体討議、グループワーク、ミニレクチャーが行われ、活発な議論が交わされました。



全体発表・討議の様子

## 初期臨床研修合同説明会開催

2018年11月17日(土) 15時から附属病院13階講堂において、2020年度以降の研修医採用に向けた「初期臨床研修合同説明会～一緒に考えよう。医師としての大切な第一歩～」が開催されました。今年は本学から10名、他大学から21名の4・5学年医学部学生31名が参加しました。2020年度採用研修医から一部制度が変更されることについて、卒後臨床研修センター金子一成センター長から詳細な説明があり、参加者は真剣に聞き入っていました。また、説明会終了後に開催された情報交換会では学内指導医も出席し、医学生と終始和やかな雰囲気で見聞交換するなど、盛況のうちに終了しました。

### 表紙写真紹介 「雪」

撮影：清水謙太 附属病院管理課広報係(所属は当時)

撮影者コメント 雪の降る日に撮影、看板のえんじ色がよい差し色になりました。

## 学会主催報告

2018年8月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### 日本尿路結石症学会第28回学術集会

■会期 2018年8月24～25日 ■場所 大阪国際交流センター

テーマ：「Stone Freeを目指して：Science、Technology、外科医の技の結集」

本学会は、男性では7人に一人が生涯のうちに罹患すると言われる尿路結石症について、成因、予防、治療法などの主に研究成果を議論する学会です。特別講演では、尿路結石症の発生に関連が深いメタボリック症候群への対策について、本学健康科学センターの木村穰教授にご講演いただきました。

【会長：腎泌尿器外科学講座教授 松田公志】



## 学会賞等受賞情報

2018年10月～12月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

### 奨励賞

看護学部 広域看護分野 精神看護学領域  
三木 明子 教授  
■テーマ 奨励賞を受賞して  
■授与学会 第26回日本産業ストレス学会総会



### Young Investigator Award

リハビリテーション医学講座  
谷口 真也 任期付助教  
■テーマ Mixed reality 技術を用いた認知訓練が術後高齢者の認知機能に与える効果に関する研究  
■授与学会 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会



### 会長賞

腎泌尿器外科学講座 矢西 正明 講師  
■テーマ 尿中L-FABPはシスプラチンによる薬剤性AKIの早期診断マーカーになりうるか  
■授与学会 第68回日本泌尿器科学会中部総会



### 京都府知事表彰

香里病院放射線部  
原口 隆志 技師長 診療放射線技師  
■テーマ 事業の推進と府民、市民の健康増進や医療放射線の啓蒙  
■授与団体 公益社団法人京都府放射線技師会



### Best Oral Presenter

外科学講座 中竹 利知 助教  
■テーマ Glutathione inhibits the expression of proinflammatory biomarker inducible nitric oxide synthase in hepatocytes  
■授与学会 25th International Conference of FFC-13th International Symposium of ASFFBC



## 行事予告

- 総合医療センターアレルギーセンター公開講座  
2/3 (日) 14:00～16:15 ツイン21MIDタワー20F 第8・第9会議室  
予約不要(無料)
- 附属病院アレルギーセンター公開講座  
2/9 (土) 14:00～16:00 附属病院13F 講堂 予約不要(無料)
- 看護学部・看護学研究科 新設記念講演会  
2/11 (月・祝) 13時30分～16時30分 医学部棟加多乃講堂 要予約

- 医療健康セミナー 要予約(無料)  
いずれも枚方T-SITE7階りそなホール  
2/16 (土) 第16回 「冬のお風呂にご用心 ヒートショックを防ぐ医学知識」  
健康科学教室 木村穰 教授
- 3/16 (土) 第17回 「認知症予防 わかってきたこと、今できること」  
精神神経科学講座 砂田尚孝 助教

\*\*\*詳細は本学公式サイトなどでご確認ください。\*\*\*

## 本学教職員編著作物の紹介

2018年1月～2018年12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。

### 「IgG4-Related Disease」

内科学第三講座 岡崎 和一 教授編集  
■出版 Springer ■発行 2018年7月

### 「Enhanced Recovery after Surgery」

外科学講座 海堀 昌樹 診療教授 他編集  
■出版 Springer ■発行 2018年1月

### 「医療情報技師能力検定試験 過去問題・解説集 2018」

日本医療情報学会医療情報技師育成部会  
大学情報センター  
仲野 俊成 准教授 他 編集・監修  
■出版 南江堂  
■発行 2018年3月



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2018年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

附属病院がん治療・緩和センター 内科学第一講座 倉田 宝保 診療教授	NHK「かんさい熱視線」 (10月5日)	がん治療薬「オブシーボ」の意義や効果に関する倉田診療教授のコメントと、臨床現場における使用例としてがん治療・緩和センターの様子が、京都大学本庶佑教授を取り上げた特集で紹介されました。
リハビリテーション医学講座 長谷 公隆 教授	毎日新聞 夕刊 (10月13日)	長谷教授らの研究チームと株式会社テクリコが共同で開発している、現実世界に3D映像を組み合わせた複合現実(MR: Mixed Reality)技術を用いるリハビリシステムが取り上げられ、関医ドイケアセンター・香里での利用風景が写真付きで紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	Medical Tribune (10月22日更新)	10月16日(火)に東京で行われたセミナーにおいて、高橋教授が、滲出性加齢黄斑変性(wAMD)治療における患者負担軽減策の一つとして事前に計画した薬剤投与間隔を個々の患者さんに応じて適宜調節する、T&E投与の有効性を語った様子が取り上げられました。
総合医療センター	毎日放送 「ドラフト緊急生特番!お母さんありがとう」 (10月25日)	プロ野球ドラフト会議の指名候補者を集めた特別番組で、総合医療センターが、ある選手に対して厚生労働省指定難病「IgA腎症」の治療に取り組んだことが紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	介護ポストセブン (10月30日更新)	高橋教授が10月に開催された外部のセミナーにおいて、加齢黄斑変性の患者さんと治療に従事する医師双方に負担が少ない抗VEGF治療薬と、その投与スケジュールに関する最新の研究成果を発表した様子が取り上げられました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	朝日新聞 朝刊 (10月31日)	読者からの病気に関する質問に回答する連載企画「どうしました」で、高橋教授が、結膜下出血を繰り返しているという質問者に、症状や原因、治療方法について最近の研究を交えて回答しました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	NHK「あさイチ」 (10月31日)	特集「知っておきたい!大きく変わったうつ病治療」に加藤准教授が、うつ病治療における薬物療法の専門家として出演。薬物療法における処方薬の種類や服薬量などについて解説しました。
附属病院 総合リハビリテーションセンター	読売新聞 朝刊別刷り (11月17日)	健康・医療に関する特集記事を扱った別刷り1面で、総合リハビリテーションセンターで実施している複合現実(MR: Mixed Reality)技術を用いたリハビリシステムの使用風景が写真で紹介されました。
医化学講座 清水(小林) 拓也 教授	朝日新聞 朝刊他 (12月4日)	清水教授らの研究チームが、腫れや痛みのもととなる物質であるプロスタグランジンに結合する、受容体の立体構造を世界で初めて解明したことが取り上げられ、今後期待される効果やアスピリンの弱点を補える「スーパーアスピリン」開発の可能性について紹介されました。
看護学部 三木 明子 教授	日本経済新聞 朝刊 (12月8日)	訪問介護における女性ヘルパーへのセクハラ問題に関する、抑止力のために2人のヘルパーを派遣しても現行制度では1人分の介護報酬しか支払われない現状について、三木教授のコメントが掲載されました。
精神神経科学講座 齊藤 幸子 診療講師	大阪府医ニュース (12月19日)	齊藤診療講師が登壇した大阪府医師会主催の「第135回エイジレス健康講座」が取り上げられ、経験や体験で人生を豊かにできることや中高年の物忘れなどについて、学術的な知見を交えながら講演したことが紹介されました。
法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	時事通信 (12月29日)	橋谷田准教授が、警察の事件捜査に用いられるDNA鑑定件数の増加や精度向上に関する記事で取材を受け、「事件現場に他人の遺留物が残っている可能性もある。DNA型が判明しても容疑者と断定せず、別の証拠での捜査も必要だ」と指摘したコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## ソーシャルメディアガイドライン制定について

この度、本学の教職員並びに学生が順守すべきルールに基づいて自覚と責任をもってソーシャルメディアを利用・活用していただくために、本ガイドラインを策定しました。ガイドラインは本学公式サイト等からご確認いただけます。

<http://www.kmu.ac.jp/snsguideline/index.html>

## 編集後記

新たな年が明けました。皆さまにとって良き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

なお前号から、固有のイベント名や寄稿文を除き、原則として文中の年表記を西暦に統一しております。ご了承ください。

さて、次号まで掲載予定の「若手研究者特集」、今回の取材で実験室を訪れた際には、実験設計のためのメモに遺伝子の塩基配列が書かれているのを見て、撮影しながら興味津々でした。取材にご協力いただきました先生方には、深く感謝申し上げます。(さ)

## 関西医科大学広報 Vol.44

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2344

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail: [kmuintfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuintfo@hirakata.kmu.ac.jp)

2019年1月31日(木)発行